

## Solace Systems 社が、リアルタイム・オペレーション・ビジビリティで SL 社と提携

### 業界標準の監視ツールで、ミッション・クリティカルなネットワーク・データのリアルタイムな可視化を実現

2009年6月22日 プレス・リリースより:

メッセージング・ミドルウェアならびにコンテンツ・ネットワーク・ハードウェアのリーダーである Solace Systems 社は、リアルタイムな監視、分析、可視化ソフトウェアの提供でリードする SL 社と提携したことを、発表しました。幅広い採用実績を誇る SL 社の RTView プラットフォームを、Solace 社のコンテンツ・ルーティングフレームワークで使用することで、Solace 社の Unified Messaging Platform でサポートされている多種類のメッセージングを、リアルタイムに可視化、監視、分析、管理できるようになります。

Solace 社のハードウェア・ベースのメッセージング製品は、性能にまったく影響なく、評価指標データの配列をリアルタイムに収集できます。両者と組み合わせたソリューションによって、ネットワークならびにミドルウェア・チームは、この詳細なリアルタイム情報をフルに活用できるようになります。RTView のカスタマイズ可能なダッシュボード、アラート、レポートは、ネットワーク管理者が Solace ネットワーク内で、RTView がサポートしている他製品も含め、発生するイベントをリアルタイムに閲覧、パイロット分析、レポートすることを可能にします。

「監視と管理は、ハードウェアをベースにしたメッセージング・インフラストラクチャが提供する競争優位性を維持するための重要な側面である」と、Solace Systems 社のチーフ・アーキテクトである Shawn McAllister 氏は、述べました。「SL 社の RTView は、グローバルな運用オペレーションをピーク時であっても常に効率的に維持することで極めて効果的であり、我々の顧客に即刻価値をもたらすであろう」と、加えました。RTView はその堅強な監視機能に加え、ユーザが性能に関する履歴データをアーカイブして、それらをリアルタイムなデータと比較し、トレンド解析や容量計画を行うことを可能にします。

“  
SL 社の RTView は、グローバルな運用オペレーションをピーク時であっても常に効率的に維持することで極めて効果的であり、我々の顧客に即刻価値をもたらすであろう”

Solace Systems 社  
チーフ・アーキテクト  
Shawn McAllister 氏

## ロングセラー製品 SL-GMS C++/Developer 新バージョン 6.2d リリース

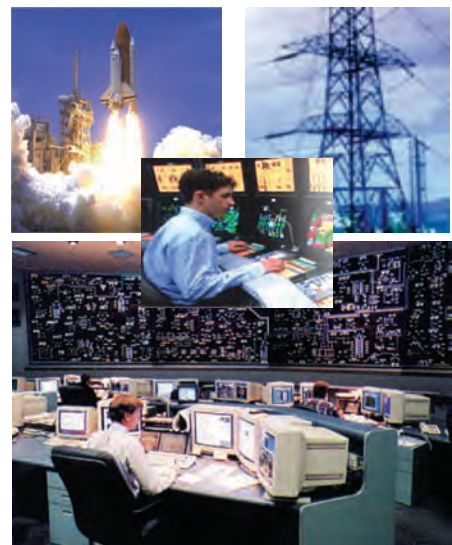
2009年9月2日 プレス・リリースより:

SL 社は、Microsoft Visual Studio 2008 に対応した、SL-GMS C++/Developer ならびに C++/Map, C++/Net, Custom Editor オプション製品の新しいバージョン 6.2d をリリースしたことを、発表しました。SL-GMS C++/Developer は、1983 年以来、電力・ガス供給管制センター、交通管制センター、ネットワーク・オペレーション・センター、宇宙・防衛など、世界の管制センターや制御室における数千におよぶミッション・クリティカルなリアルタイム監視制御システムで活躍してきた、ロングセラー製品です。今回の SL-GMS C++/Developer 最新版では、新たに Visual Studio 2008 ならびに Visual C++ 9.0 のサポートを追加した他、オブジェクトの変換設定などの機能改善を施し、引き続き継続的な製品強化を図っています。

SL-GMS が担当データ・ポイント数は10万点を超えるものもあり、画面数1000枚以上、日本全国から詳細地図まで、ダイナミック・オブジェクト数10万個以上といったシステムの数々で、そのパフォーマンスと信頼性が評価されてきました。さらに、スタンドアロンの SCADA システムから、大規模な DCS 分散制御システムまでの適用が、そのスケーラビリティを実証しています。

そして、SL-GMS Draw ダイナミック・グラフィック・エディタによる再利用可能なグラフィックスの対話的な作成と資産化、SL-GMS Custom Editor オプションによるアプリケーション固有のエンドユーザ向けカスタム・エディタの容易な構築が、監視制御システムの開発・保守における高い生産性を実現してきました。

1980~1990 年代に開発されたシステムが今日もお稼働、組み込み再販されている一方で、SL-GMS C++/Developer は毎年新しいプロジェクトで採用され続けているロングセラーです。この20年間、監視制御システムの世界が、VMS から UNIX, Windows, Linux へ移り変わって来た中で、真のオブジェクト指向アーキテクチャを持った SL-GMS は、新機能拡張、新しい OS やフレームワークへの対応において、絶対的な優位性を誇示してきました。



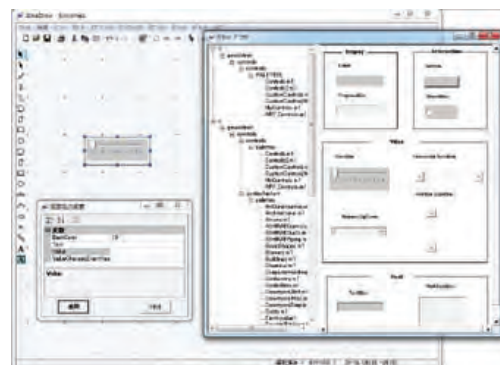
## 最新の WPF コントロール、3次元やビデオなどの高度なサード・パーティ WPF コントロールを取り込んだアプリケーションの迅速な構築を支援

SL-GMS Developer for .NET には、他の SL-GMS 開発ツール製品と同様、各種機能の具体的な使い方を示すサンプルと解説が提供されており、それらを実際のアプリケーション開発で活用していただけるようになっています。最新のバージョン3.2aでは、WPF (Windows Presentation Foundation)組み込みコントロール・サンプルが新たに追加されました。

サンプルでは、WPF コントロールを組み込む SL-GMS 画面モデルを SL-GMSDraw エディタにロードし、製品で予め用意されている WPF コントロール・パレットから、編集領域にドラッグ&ドロップしてインスタンスする方法を説明します(右上図)。そして、それらのイベント・ハンドラを表すリネーム変数をオブジェクトに追加する方法を示し、サンプル・アプリケーションは、コントロールのイベントをハンドルします。

さらに、Code Project ウェブサイトからの3次元棒グラフを SL-GMS モデルに組み込み、グラフ上でクリックやドラッグすると回転する例(右下図)を使い、サード・パーティ供給の3次元グラフやビデオといった高度なコントロールを SL-GMS のカスタム・コントロールとして組み込んで作成する方法について、示します。

これにより、SL-GMS Developer for .NET で作成した動的画面ならびに Custom Editor for .NET による専用カスタム・エディタを組み込んでいるソリューションで、最新の WPF コントロールを迅速に利用することが可能になります。ビジュアルなプレゼンテーションが競争上優越となる環境においては、最先端グラフィックスを即座にアクセスできることが重要です。



WPF コントロール・パレットからオブジェクトを選択し、動的属性を設定



サンプルでは、独自の WPF コントロールを組み込む方法を提示

## イベント・セミナーのご案内

### ITpro EXPO 2009 出展 10月28日(水)～30日(金) @東京ビックサイト

#### 「SOAテーマ・セッション」講演

★10月29日(木) 14:00-14:40 無料・事前登録制



@ITpro EXPO 2009 公式サイト <http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/index.html>

「リアルタイムな可視化と監視ダッシュボードの適用ーインフラ/アプリ監視から BAM するには」  
株式会社 SL ジャパン 代表取締役社長 羽島 良重

出展製品: **SL RTView**



世界の主要 SOA ミドルウェアのフロントエンドをはじめ、24 x 365 日運用システムのインフラ/アプリ監視からサービスやオペレーションの状況を監視する BAM(ビジネス・アクティビティ監視)ソリューションまで、米 SL 社の RTView『カスタム』ダッシュボードを適用した『リアルタイム』データのグラフィックな可視化と監視について、Google マップ、CEP エンジン、JMX、JMS、XML、グリッド・アプリケーションなどへの接続による構築事例とデモを交えて、解説します。

■展示会への招待券をご希望の方は、Newsletter 返信用ファックスまたは [info@sl-j.co.jp](mailto:info@sl-j.co.jp) までご請求ください。

### .NET による Web 対応の監視制御セミナー 2009年12月7日(月) @SL ジャパン所在ビル(東京・南青山)

「.NET による Web 運用の監視制御システムの可視化と専用カスタム・エディタの構築についてー Windows 7 対応新バージョン(予定)」

早期に .NET へ移行してすでに出荷されている SL 社の国内ユーザー様の事例とともに、SL-GMS Developer for .NET と Custom Editor for .NET による監視制御システムのリアルタイム・ダイナミック GUI と専用ビルダーの構築が、いかに最短の市場投入時間で支援できるかを解説してまいります。また、SL-GMS によるアプリケーション開発手順や技法を、サンプルを使って、具体的にご説明いたします。Windows 7 対応の新バージョンでご紹介する予定です。

■セミナーのお申し込みは、Newsletter 返信用ファックス、電子メール [seminar@sl-j.co.jp](mailto:seminar@sl-j.co.jp) またはホームページから承っております。



Real-Time Visibility

年3回発行 2009年9月24日発行 通巻34号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山 3-1-30 エイバックスビル 3階

Tel. 03-3423-6051 Fax. 03-3423-6070 [info@sl-j.co.jp](mailto:info@sl-j.co.jp) [www.sl-j.co.jp](http://www.sl-j.co.jp)

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。  
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。  
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。